

文化観光の取り組み

～キトラ古墳壁画発見 40 周年記念企画展～

西光 慎治・辰巳 俊輔

1. はじめに

近年、「文化観光」という言葉が注目され、観光庁などが推進する観光政策では、地域の文化価値を深く体験する方向へとシフトしている。パンデミック後の観光再構築においても、その土地ならではの文化資源に焦点を当てることが求められており、地域の文化を象徴し、保存・発信する博物館の存在が再評価されている。博物館は、これまで教育的・研究的な「知の拠点」としての価値を重視してきましたが、近年は「観光体験の場」としても大きな可能性を秘めているとされている。来館者は、展示物だけでなく、その背景にあるストーリーや地域とのつながりといった「体験全体」に関心を持つようになっている。特に訪日外国人や国内旅行者にとって、博物館はその土地の文化を直感的に理解する入り口であり、「知的な観光体験」を可能にする場所と言える。博物館は、さまざまな資料を収集・保管・調査研究し、その成果の展示などを通じて人々に提供することで、学びや楽しみを創出することができる。歴史展示は、過去の出来事や文化を現代に伝え、来館者が自らのルーツや文化の多様性を知るきっかけとなる。日本では5,700以上の博物館が存在し、それぞれが異なるテーマで展示を行っている。歴史博物館以外にも、総合博物館では地域の歴史や文化全般を扱い、専門博物館では特定の分野に特化している。大学博物館では学術研究の成果を公開を行うなどこれらの施設は、歴史的遺物の展示だけでなく、伝統芸能の公演やワークショップなど、体験型のイベントも開催し、多様な形で文化を伝えている。2020年には「文化観光推進法」が施行され、博物館や神社仏閣などを目的とした文化観光を推進し、観光振興と地域活性化につなげることが目指されている。これにより、難解な専門用語が並びがちだった展示解説も、「考古学をやさしく」といった方向性が提唱されるなど、より一般の人々にわかりやすく、親しみやすい歴史展示への工夫が進められている。明日香村では明日香村埋蔵文化財展示室において発掘調査で得られた調査・研究の成果を展示・公開を行っている。展示では縄文時代から弥生・古墳・飛鳥時代を中心に日本の国家形成の歩みを出土遺物や早川和子氏の考古復元画を通じて当時の様子を紹介している。また、飛鳥の魅力発信の一環として他館への出張展示として奈良県立美術館で「明日香村まるごと博物館－全域に文化財が眠る村とその魅力」展(2017.11.23～2018.01.14、入場者数12,531名)と題して、村内の有形・無形文化財や歴史遺産、さらに地域の伝統行事や衣食住などの民俗・芸能を一堂に会した展覧会を実施した。

今回、昭和58(1983)年の高松塚古墳に次ぐ第二の極彩色壁画としてキトラ古墳壁画の発見から40年を迎えた。高松塚古墳、キトラ古墳以外にも飛鳥の地には古代を形作った人々が眠る墳墓が点在している。その多くが得意な造形や色彩で彩られ、個性豊かな葬送のあり方を現代に伝えてくれる。前方後円墳体制の終焉から八角墳を頂点として、大型方墳や横穴式石室、横口式石槨など社会秩序を具現化された終末期古墳は日本列島における古墳文化の終焉と日本国誕生と軌を一にしている。今回、キトラ古墳壁画発見40周年を記念して、飛鳥の様々な「葬りのカタチ」を紹介する企画展を実施した。会期等の要綱は以下の通りである。

本企画展の企画・展示・渉外は辰巳俊輔・西光慎治が担当した。

2. 展示趣旨

キトラ古墳壁画が発見されて40年を記念した企画展。飛鳥地域の遺跡から出土した工芸品は日本アートの源流とされている。キトラ古墳では四神像をはじめ獸頭人身像や東アジア最古の天文図など極彩色壁画が描かれていた。今回の展示では壁画の絵画性にスポットをあて、また考古学資料についても工芸的な要素を踏まえた「飛鳥のモティーフ～葬りのカタチ」と題して1,400年前の工芸と絵画、造形物の観点から展示を行うことで当時の人々の美的センスや技術力・工芸力を体感することを目指す。さらに現代日本画作家とコラボしてキトラ古墳壁画の復元製作を通じて飛鳥時代の絵画や絵師の謎に迫るものである。

3. 開催要項

会 期 令和5年10月27日(金)～令和5年12月10日(日)
場 所 平城宮いざない館企画展示室 奈良市二条大路南3-5-1
主 催 明日香村・平城宮跡管理センター
共 催 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会
参 加 費 無料

関連講座 ギャラリートーク 令和5年10月27日(金) 11:00/14:00

講演会① 令和5年11月7日(火) 10:30～12:00

「キトラ古墳の歴史的意義

～壁画の発見から現代、そして未来へ～」

西光 慎治(明日香村教育委員会文化財課課長補佐)

講演会② 令和5年12月10日(火) 10:30～12:00

「「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向けて」

小池 香津江(明日香村教育委員会文化財課課長)

対 談 令和5年11月12日(日) 10:00～11:20

「キトラ古墳「四神図」に魅せられて

～日本画から読み解く～」

鳥頭尾 精(日本画家・創画会会員・京都教育大学名誉教授)

西光 慎治(明日香村教育委員会文化財課課長補佐)

ギャラリ 令和5年11月12日(日) 11:20～11:50

トーク 鳥頭尾 精(日本画家・創画会会員・京都教育大学名誉教授)

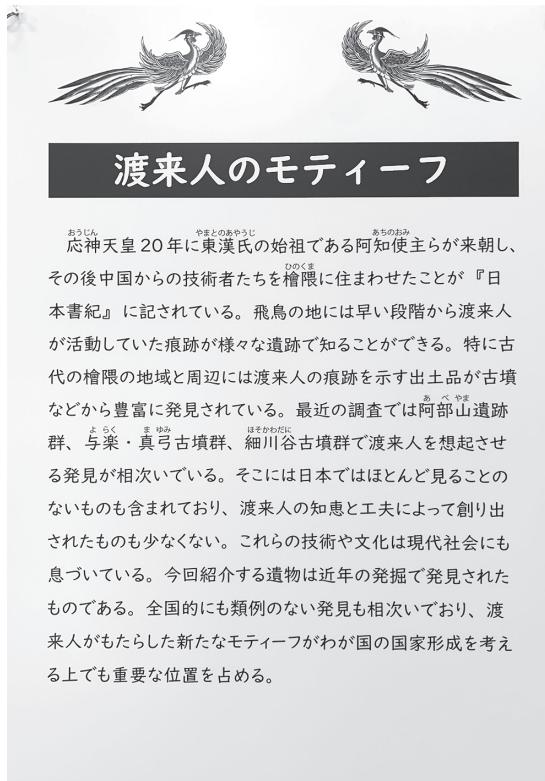
体 験 令和5年12月10日(日) 10:00～16:00

「古代飛鳥のモティーフを粘土で作ってみよう」

4. 入場実績

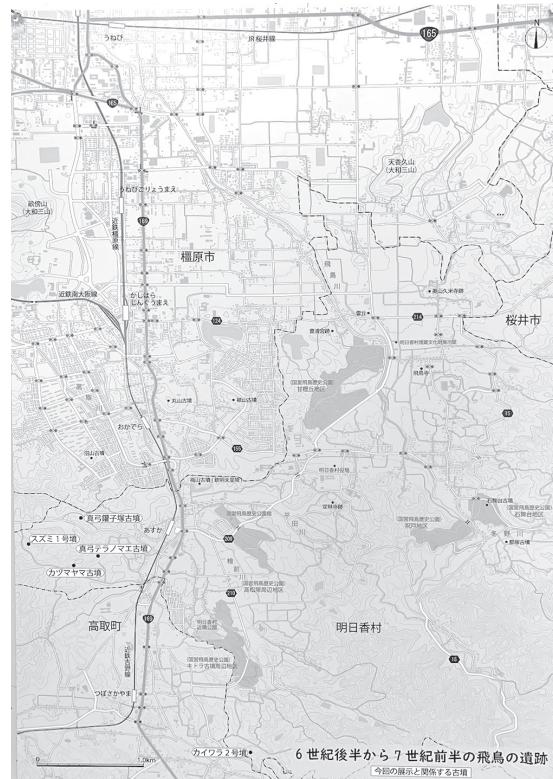
来場者数 35,652名

5. 主な展示内容



応神天皇 20 年に東漢氏の始祖である阿知使主らが来朝し、その後中国からの技術者たちを檜隈に住ませたことが『日本書紀』に記されている。飛鳥の地には早い段階から渡来人が活動していた痕跡が様々な遺跡で知ることができる。特に古代の檜隈の地域と周辺には渡来人の痕跡を示す出土品が古墳などから豊富に発見されている。最近の調査では阿部山遺跡群、与樂・真弓古墳群、細川谷古墳群で渡来人を想起させる発見が相次いでいる。そこには日本ではほとんど見ることのないものも含まれており、渡来人の知恵と工夫によって創り出されたものも少なくない。これらの技術や文化は現代社会にも息づいている。今回紹介する遺物は近年の発掘で発見されたものである。全国的に類例のない発見も相次いでおり、渡来人がもたらした新たなモティーフがわが国の国家形成を考える上でも重要な位置を占める。

渡来人のモティーフ・展示概要



渡来人のモティーフ・古墳位置図

《主な展示資料》

- 1) 真弓罐子塚古墳：獸面飾金具・板状土製品・ミニチュア炊飯具・須恵器・凝灰岩片他
- 2) カイワラ 2 号墳：ミニチュア炊飯具
- 3) スズミ 1 号墳：ミニチュア炊飯具
- 4) カヅマヤマ古墳：漆喰付着平瓦・石榔材（漆喰付着結晶片岩切石）

《主な古墳概要》

1) 真弓罐子塚古墳 明日香村大字真弓

貝吹山の南東部に位置する 6 世紀中～後半に造営された円墳である。埋葬施設は南に開口する右片袖式の穹窿状横穴式石室で、玄室南側には奥室を有している。出土遺物には獸面飾金具・馬具・ガラス玉・須恵器・土師器などがある。

2) カイワラ 2 号墳 明日香村大字真弓

キトラ古墳の南方に位置する 6 世紀後半の方墳である。埋葬施設は右片袖式横穴式石室で石材の大半は失われている。出土遺物は馬具、ミニチュア炊飯具がある。

3) スズミ 1 号墳 明日香村大字真弓

貝吹山の対岸に位置する 6 世紀後半の円墳である。埋葬施設は右片袖式横穴式石室で石材の大半は失われている。出土遺物はミニチュア炊飯具、鉄釘等がある。

4) カヅマヤマ古墳 明日香村大字阿部山

マルコ山古墳の北西に位置する 7 世紀後半の方墳である。埋葬施設は磚積み式横穴式石室で石材の大半は失われている。石室壁面には漆喰が塗布されており、玄室中央には棺台が設けられている。1361 年の正平南海地震で古墳の大半が崩壊した状態である。



企画展示室 入口



展示室正面



渡来人のモチーフ



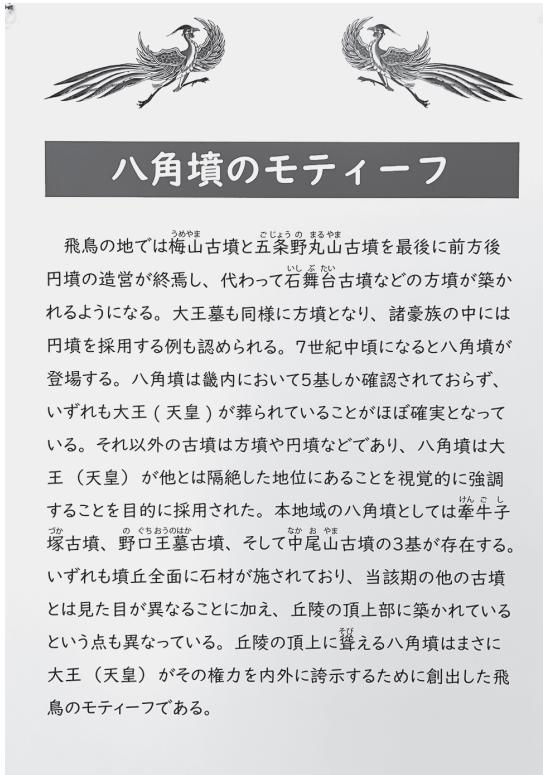
八角墳のモチーフ



猿石(複製)①



猿石(複製)②



八角墳のモティーフ

飛鳥の地では梅山古墳と五条野丸山古墳を最後に前方後円墳の造営が終焉し、代わって石舞台古墳などの方墳が築かれるようになる。大王墓も同様に方墳となり、諸豪族の中には円墳を採用する例も認められる。7世紀中頃になると八角墳が登場する。八角墳は畿内において5基しか確認されておらず、いずれも大王（天皇）が葬られていることがほぼ確実となっている。それ以外の古墳は方墳や円墳などであり、八角墳は大王（天皇）が他とは隔絶した地位にあることを視覚的に強調することを目的に採用された。本地域の八角墳としては牽牛子塚古墳、野口王墓古墳、そして中尾山古墳の3基が存在する。いずれも墳丘全面に石材が施されており、当該期の他の古墳とは見た目が異なることに加え、丘陵の頂上部に築かれているという点も異なっている。丘陵の頂上に聳える八角墳はまさに大王（天皇）がその権力を内外に誇示するために創出した飛鳥のモティーフである。

八角墳のモティーフ・展示概要



渡来人のモティーフ・古墳位置図

《主な展示資料》

- 1) 牽牛子塚古墳：夾紵棺片・七宝飾金具・凝灰岩切石・墳丘模型 (1/30)
- 2) 野口王墓古墳：墳丘凝灰岩切石

《主な古墳概要》

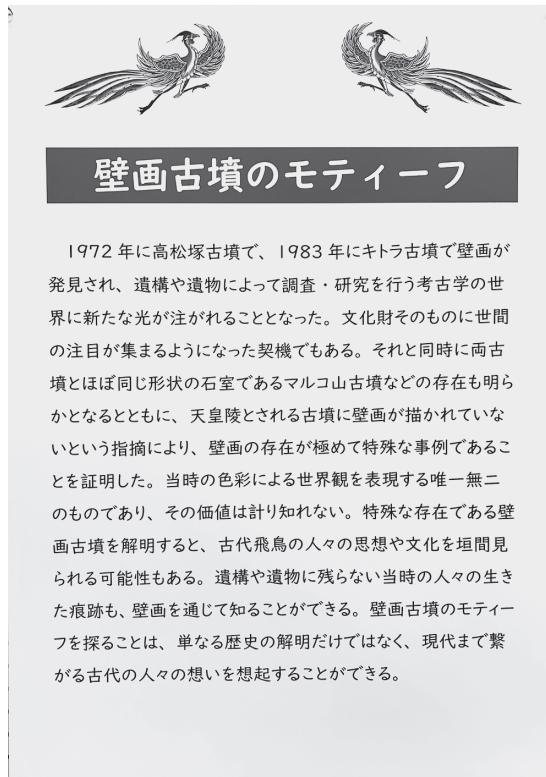
1) 牽牛子塚古墳 明日香村大字越

貝吹山から派生する丘陵頂部に築かれた7世紀後半に築かれた対辺長約23mの八角墳である。墳丘は版築で築かれており、外装は凝灰岩切石で覆われている。埋葬施設は二上山製の凝灰岩切石を用いた刳り抜き式横口式石槨である。墓室は仕切り壁を挟んで東西に二室あり、床面には削り出しの棺台が設けられている。天井はアーチ状となっている。出土遺物には夾紵棺片、七宝飾金具、ガラス玉、鉄製品、歯牙、人骨などがある。

2) 野口王墓古墳 明日香村大字野口

今城谷に築かれた7世紀後半の八角墳である。現在は宮内庁により、天武天皇・持統天皇の檜隈大内陵に治定されている。埋葬施設は『阿幾乃山陵記』によると内陣と外陣から構成された全長7.7mの横穴式石室と考えられる。玄門部には金銅製の観音扉が設けられており、把手には獅子頭があつたとされる。玄室内には朱塗りの夾紵棺と蔵骨器があり、それぞれ金銅製の棺台が設けられていたとされる。

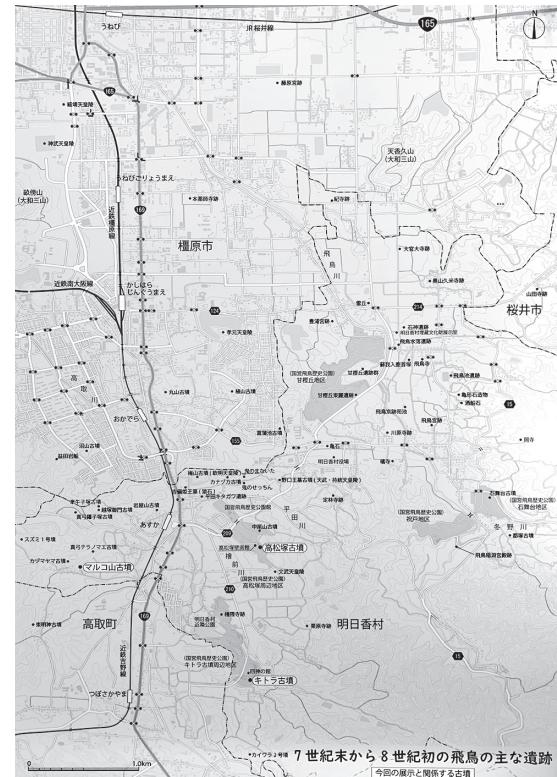
墳丘については外周石敷を含め、墳丘が四段築成の五重と考えられており、築造規格から牽牛子塚古墳の墳丘が野口王墓古墳の二段目以上と規格が一致することから、野口王墓古墳は牽牛子塚古墳をモデルに築造されていることがわかる。さらに宮内庁による過去の調査で墳丘全体が凝灰岩切石で装飾されていたことも明らかとなっている。さらに、牽牛子塚古墳と野口王墓古墳、中尾山古墳はそれぞれが可視領域内に築造されている。



壁画古墳のモティーフ

1972年に高松塚古墳で、1983年にキトラ古墳で壁画が発見され、遺構や遺物によって調査・研究を行う考古学の世界に新たな光が注がれることとなった。文化財そのものに世間の注目が集まるようになった契機でもある。それと同時に両古墳とほぼ同じ形状の石室であるマルコ山古墳などの存在も明らかとなるとともに、天皇陵とされる古墳に壁画が描かれていないという指摘により、壁画の存在が極めて特殊な事例であることを証明した。当時の色彩による世界観を表現する唯一無二のものであり、その価値は計り知れない。特殊な存在である壁画古墳を解明すると、古代飛鳥の人々の思想や文化を垣間見られる可能性もある。遺構や遺物に残らない当時の人々の生きた痕跡も、壁画を通じて知ることができる。壁画古墳のモティーフを探ることは、単なる歴史の解明だけではなく、現代まで繋がる古代の人々の想いを想起することができる。

壁画古墳のモティーフ・展示概要



壁画古墳のモティーフ・古墳位置図

《主な展示資料》

- 1) キトラ古墳：石槨材（凝灰岩）、暗渠排水溝石材、墳丘測量図（1/20）、朱雀真鎧模型ほか。
- 2) 高松塚古墳：海獸葡萄鏡（複製）、透し彫り金銅製金具（複製）
- 3) マルコ山古墳：棺座金具、刀金具、漆塗木棺ほか。

《主な古墳概要》

1) キトラ古墳 明日香村大字阿部山

版築を用いて築かれた7世紀末の円墳である。墳丘裾部で版築工法に用いられた幕板と杭の痕跡が検出されており、残置されていたことが明らかとなっている。埋葬施設は二上山製凝灰岩切石を用いた組合せ式横口式石槨で、壁面には四神図をはじめ、獣頭人身像、天文図が描かれている。出土遺物には漆塗木棺片をはじめ刀装具、ガラス玉、人骨などがある。

2) 高松塚古墳 明日香村大字平田

版築を用いて築かれた7世紀末～8世紀初頭の円墳である。埋葬施設は二上山製凝灰岩切石を用いた組合せ式横口式石槨で、壁面には四神図をはじめ、男女群像、星宿図が描かれている。出土遺物には漆塗木棺片をはじめ刀装具、ガラス玉、人骨などがある。漆塗木棺には金箔を張った棺台が用いられている。

3) マルコ山古墳 明日香村大字真弓

版築を用いて築かれた7世紀末の多角形墳である。墳丘では版築工法の幕板痕跡と土嚢積みを確認している。墳丘の周囲にはバラス敷がありバラス面の下層には暗渠排水溝が設けられている。埋葬施設は二上山製凝灰岩切石を用いた組合せ式横口式石槨で、壁面には壁画は描かれていない。出土遺物には漆塗木棺片をはじめ刀装具、ガラス玉、人骨等がある。



壁画古墳のモティーフ・コーナー



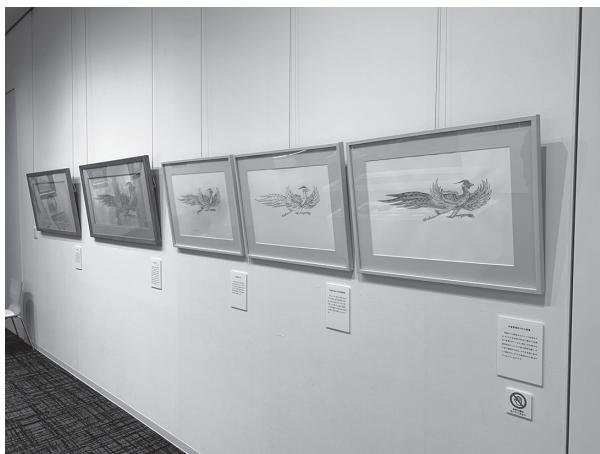
キトラ古墳の軌跡



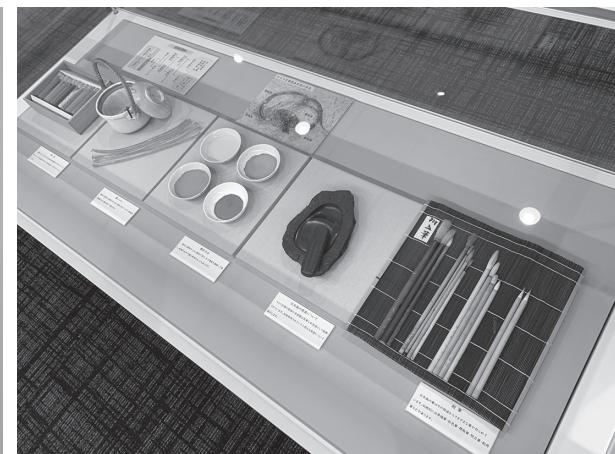
キトラ古墳 朱雀(複製)



壁画古墳のモティーフ



キトラ古墳 朱雀再現過程



壁画再現に用いた日本画材

《キトラ古墳朱雀再現～日本画の技法からみた壁画再現～》



①原寸大の下絵を描く



②下絵から転写し、骨描を行う



③骨描後、着彩を行う。

体長は39.2cm、天地はわずか15.0cmを測る。盗掘孔が高松塚古墳よりも西側にずれたことで、朱雀像が幸いにも破損が免れた。この図像は細部まで徹底して描かれており見事な線描から、完璧な下絵の作成が行われたと想定できる。

出来上がった下絵をうす紙で写し取り、それを壁との間に念紙（紙に木炭を塗ったもの）を挟み、竹ペンなどで押して書く。そして壁面に写った線に骨描筆によって墨で線描する。朱雀に描かれた線は卓越した絵師の技量を今に伝えている。

骨描きした線描を生かしつつ、彩色をする。キトラの朱雀図は朱色の濃淡で効果的に表現されている。現在、日本画の伝統的画法として、小下絵で着想を練り、大下絵で構図を決定し、それを本紙に転写して着彩する。キトラの壁画はその画法を今に伝えている。

※壁画再現は創画会会員・京都教育大学名誉教授 烏頭尾 精氏による。

《キトラ古墳四神図にみる飛鳥時代の絵師の姿》

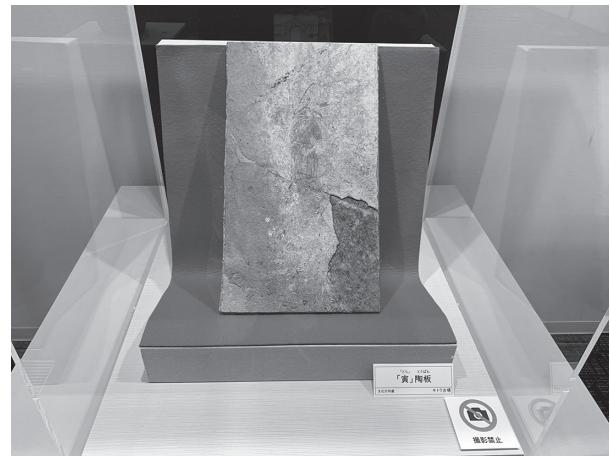
長年、鳥を描き続けてきた烏頭尾氏との対談から飛鳥時代の絵師について日本画家の視点から見えてきた人物像について紹介する。

キトラ古墳の四神図を描いた絵師については、まず単なる絵を写したといったレベルではなく1,400年前に鳥や亀、蛇などの動植物や風景などをよく観察して、写生を続けていた熟練した人物が想定される。さらに年齢や性別については力強い鉄線描や肥瘦線の様子から脂ののりきった40～50代で、性別についても女性よりも男性と考えられる。次に四神図が同一人物か別の人物かについては鉄線描や肥瘦線のタッチから別人と考えるよりも同一人物の手によるものと考えられる。但し、彩色については別の人物である可能性も残される。

高松塚古墳とキトラ古墳の四神図を比較してそれぞれの絵師との関りについては、まずキトラ古墳と高松塚古墳の絵師や集団はそれぞれの線描などの違いから異なる可能性が高い。また、画風や技量を比較して、一見、同じように見える四神図も高松塚古墳の四神図の方がより形骸化しており、キトラ古墳の四神図の抑揚のある線描表現は飛鳥時代の絵師の水準の高さを示している。このように、四神図の再現を通じて見えてきた飛鳥時代の絵師の姿は飛鳥の自然や動植物とのふれあいの中で詳細なイメージエチュードを重ねていた人物像が浮かび上がった。



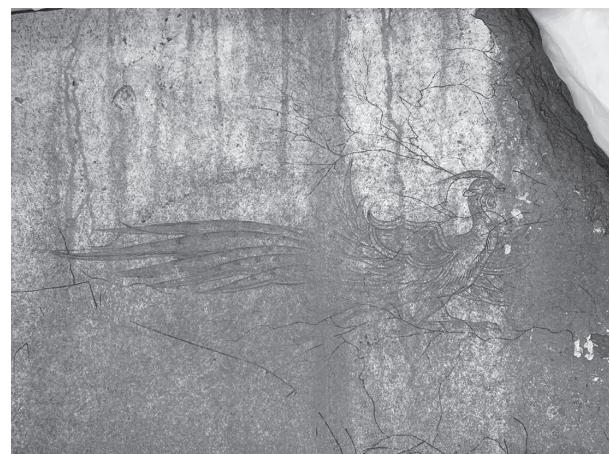
キトラ古墳壁画(複製)



キトラ古墳壁画獸頭人身像(寅)複製



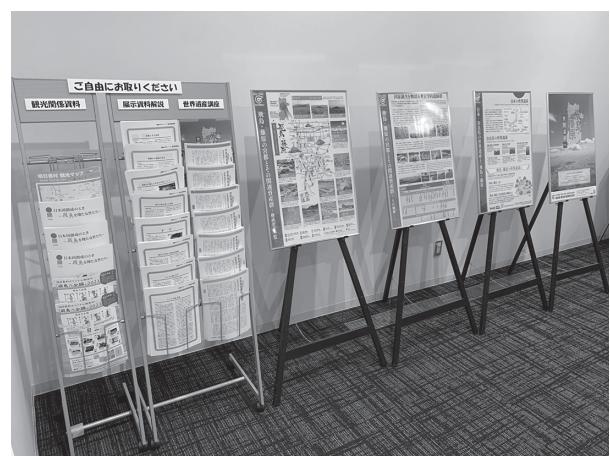
キトラ古墳壁画(白虎)複製



キトラ古墳壁画(朱雀)複製



夾綺棺・藏骨器・漆塗木棺(複製)

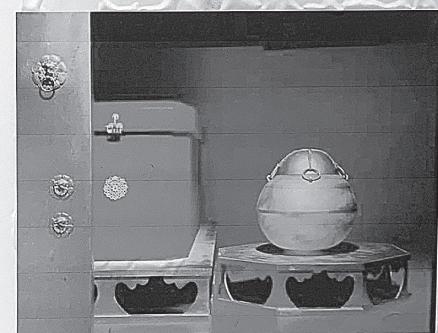
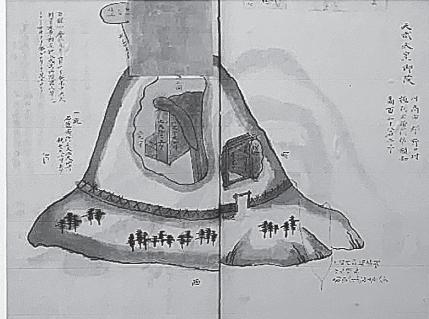


世界遺産・展示資料等 PR コーナー

野口王墓古墳と『阿不幾乃山陵記』

野口王墓古墳は明日香村大字野口に所在する八角墳である。現在は宮内庁により天武天皇と持統天皇を合葬した檜隈大内陵に治定されており、内部構造等の詳細を知ることができないが、鎌倉時代に盗掘に遭った際の実見記が存在することから、当時の様子を知ることができる。

明治13(1880)年に京都市の高山寺から『阿不幾乃山陵記』が発見された。これは文暦2(1235)年に野口王墓古墳が盗掘に遭い、犯人を逮捕したのちに取調を行った際の取調書である。この記録には当時の野口王墓古墳の様子が克明に記されている。そこでは、石室内に朱塗で張物の棺があり、その大きさは長さ七尺、広さ二尺五寸、深さ二尺五寸で、床には厚さ五寸の金銅製の台が据えられていたとある。その横には金銅桶が一つ置かれていたと記されている。『日本書紀』と『続日本紀』には天武天皇は2年間の殯を経て、持統天皇は火葬されてそれぞれ埋葬されたことが記載されている。盗掘により明らかとなった石室内の様子と文献史料の記述が一致することから、野口王墓古墳が天武天皇と持統天皇を葬った檜隈大内陵である可能性が高いことが指摘されている。



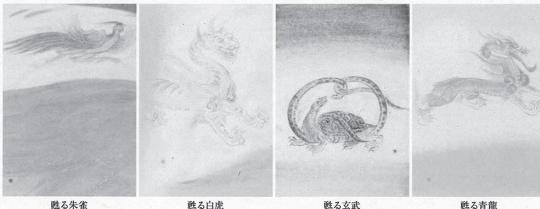
《飛鳥のモティーフから文化観光へ》

野口王墓古墳については『阿不幾乃山陵記』に見ると石室内と夾紵棺は朱色、蔵骨器、棺台、観音扉は金銅色とカラフルな色合いである。キトラ古墳や高松塚古墳も石槨内は白いキャンバスに極彩色壁画に彩られ、赤や黒色の漆塗木棺が安置されている。菖蒲池古墳では家形石棺の内部がそれぞれ前棺は黒色で奥棺は朱色に彩られている。これらの彩りは薄葬化の流れの中で当時の死生観や喪葬儀礼の一端を読み取ることができる。

野口王墓古墳では亡骸と火葬骨が一緒の墓室内に安置されているなど相反する喪葬の変化は律令国家形成過程の過渡期の様相を如実に表している。日本国が誕生する飛鳥時代において天皇自らが荼毘に付され、自らの八角墳を造営することなく合葬される行為はまさに薄葬化を象徴するものであり、造墓理念の大きな転換期にあたっている。復元された野口王墓古墳の夾紵棺や蔵骨器から伝わる当時の人々の喪葬理念に秘められた新しい時代の幕開けは、今回の展示のタイトルにある「飛鳥のモティーフ～葬りのカタチ」はまさに飛鳥時代の様々なモティーフを通じて、喪葬のカタチとなって1,400年の時を経て、現代の私たちと対話することができる。日本画の源流とされる高松塚古墳やキトラ古墳の分析から当時の絵師の姿が現代作家の目を通じて浮かびあがるなど、モティーフがもたらす膨大な情報量を読み解く卓越した作家や考古学の研究者の挑戦はこれからも続いている。「飛鳥・藤原」の世界文化遺産の登録に向けた取り組みと相まって、展覧会事業は文化遺産をより良い形で後世に伝え、魅力ある地域の観光振興や地域活性化に大きく貢献していると考える。文化観光にみる展覧会の果たす役割が大きいものと考える。

出展目録

- ・発見された直後の朱雀図再現の図像(制作年:平成13年(2001)、技法:ワトン紙・鉛筆・コンテ)
 - ・朱雀拡大復元図(制作年:令和5年(2023)、技法:ワトン紙・鉛筆・コンテ)
 - ・玄武拡大復元図(制作年:令和5年(2023)、技法:ワトン紙・鉛筆・コンテ)
 - ・甦る朱雀(制作年:平成19年(2007)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・甦る白虎(制作年:平成19年(2007)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・甦る玄武(制作年:平成19年(2007)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・甦る青龍(制作年:平成19年(2007)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・朱雀図下絵から転写骨描図像(制作年:令和5年(2023)、技法:ケント紙・墨)
 - ・朱雀図着彩された図像(制作年:令和5年(2023)、技法:ケント紙・胡粉・墨・顔彩)
- 【四神図のある風景】
- ・ふじはら 東方(制作年:平成29年(2017)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・ふじはら 南方(制作年:平成30年(2018)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・ふじはら 西方(制作年:令和元年(2019)、技法:紙本着彩・日本画)
 - ・ふじはら 北方(制作年:令和2年(2020)、技法:紙本着彩・日本画)



鳥頭尾 精

鳥頭尾 精 路年譜

- 1932 奈良高市郡吉田村の呂服屋に生まれる。
- 1956 京都府立美術大学(現芸大)卒業。
- 1957 第1回「新進作家賞」にて新作家賞受賞。
- 1960 第1回文化省文化賞受賞。
- 1966 新刊作家会員日本美術部員に選ばれる。
- 1969 京都府立近代美術館にて「本居宣長の逝去(たちまつ)」に出品。
- 1970 京都府立近代美術館にて「新開拓」に出品。
- 1974 創画会設立・創立会員となる。
- 1976 京都教育大学助教授となる。(1982 京都教育大学准教授)
- 1980 京都府立近代美術館にて「新開拓」に出品。
- 1993 京都日本書道日本美術作品展で優秀賞受賞。
- 1999 京都市芸術文化賞(都民文化功労者)京都市大賞表彰賞受賞。
- 2000 京都市芸術文化賞(都民文化功労者)京都市大賞表彰賞受賞。
- 2022 朝日経済賞受賞。

同 京都市文化大臣賞特別功労賞 受賞。

2023 令和5年(2023)、キトラ古墳壁画発見40周年記念「飛鳥のモチーフ—暮りのカタチ—」展に出品。

現在、創画会会員・京都教育大学名誉教授、京都日本画美術会顧問



キトラ古墳壁画発見40周年記念「飛鳥のモチーフ—暮りのカタチ—」展
会期: 2023.10.27(金)~12.10(日) 場所: 平城宮いざない館企画展示室

キトラ古墳壁画発見40周年記念

キトラ古墳「四神図」に魅せられて ～日本画から読み解く～

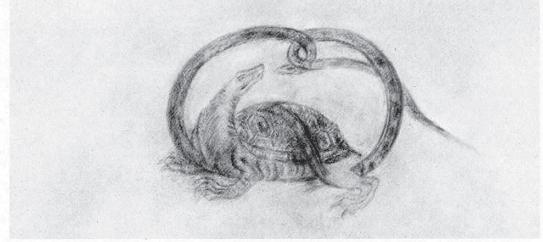
21世紀を迎えるとしているが、明日香村にあるキトラ古墳から壁画が発見され、古人の息遣いが強く伝わってきました。調査の中で、最後に姿を見せた朱雀の出現(2001年4月3日記者発表)は、大変な話題となりました。先に調査されていた高松原の四神図では、朱雀だけが消滅していたので、この朱雀の登場は「我が四神図が描かれた初の古墳」と報道されました。

キトラ古墳の南壁の朱雀図は盗掘穴がすぐそばに迫る中で、その全体像を見せた事は、まさに奇跡であり「異なるものは永遠性をもつ」という理通り運命的なものを感じています。その後、盗掘穴からデジタルカメラが導入され隠れながら撮影されたので、鳥の精悍な顔や羽根く胸の線描などリアルな表現に驚愕しました。

その時、村役場から村民に理解し易い圖像を描いて欲しいとの依頼を受けました。この事でキトラ古墳との縁が生まれ、隠れ40年の壁画の魅力に取り付かれて来ました。この壁画発見40周年記念展開催に際し、明日香村で日本画を描いている立場から壁画の魅力を発信出来る機会を得ました。その壁画からは強いメッセージを語り継げてくれます。その一つにキトラの四神図からは自然の美の潔いを感じ取ることが出来ます。中國大陸や韓半島で描かれた四神図とは趣を異にしているのです。そこには日本画の表現の原点を見る感じがします。例えば、四神の場合、自然の生きるものを觀察し写生をしている。従ってその描写は迫力に満ちています。その自然感を強く感じさせる朱雀は、その後に正面から撮影され尾羽根が横に長く伸び豪華である事が判明。神獣朱雀である事に気づかされたのですが、いづれにせよ先ず自然を觀察し、その上で象徴的表現へと純化させる技法は、日本人の感性を見る想いです。

死者と共に永遠であれと刻み込まれる壁画に、厳格な描写と品格ある表現が徹した当時の絵師たちの心意気を表したいと思います。四神図と同質に天文図や十二支図像も命懸けに描かれていて「死者に厚く」とする日本人の度数な心情を読みと事が出来るのです。この機会にキトラの壁画の魅力に出会って古代のロマンに想いを巡らせていただければと願っています。

鳥頭尾 精



玄武拡大復元図(制作年:令和5年(2023))

配布用パンフレット



鳥頭尾 精氏によるギャラリートークの様子



対談の様子

いざない館 主な展示資料一覧

		古墳名	資料名	所蔵機関
1	渡来人のモティーフ	真弓罐子塚古墳	獸面飾金具	明日香村教育委員会
			馬具類	明日香村教育委員会
			玉類	明日香村教育委員会
			板状土製品	明日香村教育委員会
		ミヅツ 2号墳	ミニチュア炊飯具	明日香村教育委員会
		カイワラ 2号墳	ミニチュア炊飯具	明日香村教育委員会
		カヅマヤマ古墳	石柳材(漆喰付着切石)	明日香村教育委員会
		真弓テラノマエ古墳	漆喰付着瓦片	明日香村教育委員会
2	八角墳のモティーフ	牽牛子塚古墳	夾紵棺片	明日香村教育委員会
			七宝飾金具	明日香村教育委員会
			ガラス玉	明日香村教育委員会
			凝灰岩片	明日香村教育委員会
			墳丘模型	奈良文化財研究所
		野口王墓古墳	凝灰岩片	明日香村教育委員会
3	壁画古墳のモティーフ	キトラ古墳	棺座金具(複製)	奈良文化財研究所
			透し金具(複製)	奈良文化財研究所
			石柳材(凝灰岩)	明日香村教育委員会
			暗渠排水溝石材	明日香村教育委員会
			探査用ドリル	明日香村教育委員会
			墳丘実測図	明日香村教育委員会
			真鍮朱雀(複製)	明日香村教育委員会
		高松塚古墳	海獸葡萄鏡(複製)	奈良文化財研究所
			透し金具(複製)	奈良文化財研究所
		(日本画)	青龍・朱雀・玄武・白虎	鳥頭尾 精氏
			複製玄武	文化庁
			複製白虎	文化庁
			複製 寅	文化庁
		高松塚古墳	海獸葡萄鏡(複製)	奈良文化財研究所
			透し金具(複製)	奈良文化財研究所
4	服飾のモティーフ	高松塚古墳	男女群像	明日香村教育委員会
5	棺のモティーフ	高松塚古墳	漆塗木棺(複製)	奈良文化財研究所
		野口王墓古墳	夾紵棺(複製)	奈良文化財研究所
			蔵骨器(複製)	奈良文化財研究所
6	石造物のモティーフ	吉備姫王墓	猿石一式	明日香村教育委員会
7	絵画のモティーフ	日本画	ふじはら春・夏・秋・冬他、日本画	鳥頭尾 精氏
		日本画	鳥頭尾 精・製作動画	明日香村教育委員会